

第二十五回本郷ふじやま公園古民家歴史部会歴史探訪 (東海道藤沢宿其の一)

第25回平成19年10月4日(木) J R 藤沢駅改札10時00分集合同刻出発、

弁当持参です。(近くにコンビニがあります)。

当日6時25分のNHK天気予報降雨率50%以上の時は翌週11日(木)に順延します。

行程 ; 「J R 藤沢駅」→1庚申堂→2江ノ島旧道→3舟玉神社→4感応院→5山王神社→6諏訪神社→7遊行坂→8江戸方見附跡→9山谷の一里塚跡→10遊行寺・長生院→11真徳寺→12真浄院→13枅形→14遊行寺橋→15地藏院(日限地藏)→16御殿橋→17陣屋小路→18藤沢御殿跡→19陣屋小路の庚申塔群→20妙善寺→21伝源義経首洗井戸→22白旗神社→(昼食)→小田急藤沢本町→「J R 藤沢駅」。

一口メモ

「VIII」藤沢宿(日本橋から6つ目)

藤沢は遙か昔、鎌倉時代から時宗総本山、遊行寺の門前町として栄えており、江戸時代の慶長6年(1601)この藤沢宿の成立でさらに大きく発展を遂げたと言う。門前町としてはもちろん、江ノ島が約1里(約4km)とそばにあったため、幕末期には70軒以上もの旅駕籠屋が立ち並びました。今や行楽地のイメージの強い江ノ島は、当時は庶民の弁財天詣でも賑わい、多くの歴史等も残っている。

規模 江戸時代、正徳元年(1711)宿高1559石840合。家数919・人口総数4089(男2046・女2043)・旅籠屋49・本陣1・脇本陣1

1・庚申堂

青面金剛像寛文13年(1673)両脇侍と共に市指定文化財。弁財天道標

2・江ノ島旧道

江ノ島弁財天を厚く信仰していた杉山検校(管を用いて鉦を刺す管鉦術の考案者)が、江ノ島参詣の人々かの道案内のために寄進したと伝えられている市内に同型の道標が11基(12基とも)有る。

3・船玉神社

祭神 弟橘姫命。 尾州津島から安永年中(1712~1720)渡海候、とあり。(藤沢地誌調べ)。かつてこの地は鎌倉三代将軍源頼朝が宋に渡る船の用材を切り出した処と伝えられ乗船成就海上守護の願いにより勧請された。このあたり大鋸(ダバリ)といい、大きな綱引き鋸(ノギリ)を遣う職人町。

4・感応院

真言宗高野山末三島山感応院瑞光寺と称す。本尊不動明王・藤沢最古の寺院・相模国八十八ヶ所一番。建立は建保6年(1218)、開基は源実朝という。慶長4年(1609)幕府より檀林所(仏教学研修所)に指定、慶長2年(1649)朱印地を賜る。建久4年(1193)頼朝が富士の裾野で狩りを催した時、旅の厄除けに三島神社を勧請した。この神社は自由に回転できるようになっており、珍しいものです。

5・山王神社

山王大権現を祀る。(藤沢地誌調べ) 寛永年中(1624~1644)現在の藤沢高校辺りに勧進された。境内裏に庚申塔がある。

6・諏訪神社

祭神 事代主命＝恵比寿様・建御名方命。遊行四代藤沢山開基吞海上人諸国修行の折信州から笈中に移し来たり正中2年(1325)山中に鎮護した、文政元年(1818)新宮再建。別当は藤澤宿清浄光寺で宮守は不動院でした。(藤沢地誌調べ) 近年祭礼に大切な四神剣が発見修復され、氏子により収蔵庫が立てられた。四神とは四方の神、即ち東は青龍、西は白虎、南は朱雀(朱の鳥)、北は玄武(亀)の四獣で表現する中国の地相の事。四神相応として東に流水・西に大道・南に窪地・北に丘陵のある地形を良しとするとあり。

一の鳥居袴石が宝物館入り口に保管されている。

7・遊行坂

遊行寺脇の坂で、登り坂を進めば戸塚へ至る東海道です。

8・江戸方見付

藤沢宿江戸からの出入口。遊行寺山門北へ数10m、藤澤より西側教育委員会表示杭街路樹隣。

9・山谷の一里塚

日本橋から12番目、現地図上約50km・遊行寺東門から北に約200m、藤澤橋より戸塚方面に徒歩10分西側教育委員会表示杭。

10・遊行寺

時宗総本山・藤沢山清浄光寺。本尊阿弥陀如来・平安仏で以内最古。遊行上人が住むからこの名が付いたと伝えられています、正式には清浄光寺といいます、東西120間南北48間5763坪、時宗の総本山で藤沢道場という。宗祖は踊り念仏で知られる一遍上人です。一遍は伊予の領主河野道広の二子松寿丸、幼にして菩提を信ず、建長5年(1253)天台宗縁教に師事し随縁坊と号す15才、文永元年(1264)浄土宗聖達に従い智真と改め念仏安心の正路を祈り権現の現示を得て一遍と改む。之に於いて六字名号六十万万人決定の札を作り、全国に易行念仏の教を布し、正応2年摂津兵庫にて示寂す。後三世まで回国布教州し定栖なし、四世吞海上人が俣野の地頭俣野五郎影平の実弟だった縁で境川筋の下流で東海道に面した極楽寺という廃寺跡に俣野五郎が施主となり堂宇を建立、藤沢山清浄光院と号し、一遍を開祖とす。遊行上人は此処を本拠に各地を遊行するようになった。

正文元年(1356)足利尊氏や鎌倉公方の庇護を受けていたが、戦国時代を迎え永正10年(1513)には伊勢氏(北条早雲)と三浦道寸の合戦で全て焼失、慶長12年(1607)に再建された。

江戸時代には庶民の信仰を集め、詞堂金(先祖を祀るところの建築寄付金)で財政に恵まれていた。

明治以降保護や財政を失い、火災や震災にも遭ったが、昭和12年(1937)今日の姿を整えた。

宝物館の青銅色唐門・寛政年鑑無建立の中雀門・大書院・小書院・寺務所・放生池・梵鐘延文元年(1356)県指定文化財・敵味方供養塔応永23年(1416)関東管領上杉氏憲が鎌倉公方足利持氏に背いて滅ぼされた際敵味方の区別無く戦傷者を収容施療し死者は平等に弔って建立したもので、時宗や遊行寺の性格の一端を現すものとして有名です。

宝物館には後醍醐天皇画像・一遍上人画像・時宗過去帳・六字居讃・安食問答(國重文)。

長生院(別名小栗堂)には本尊阿弥陀如来・小栗判官・家来十勇士・照手姫の墓・時宗系板碑。

11・真徳寺

本尊阿弥陀如来三尊・俗に赤門と呼ばれる・境内諸堂社略絵図実費頒布可、黒門＝天下の三黒門の一つ。江戸時代將軍の姫の嫁入り先の門(前田家東大赤門がそれ)、又天下の三黒門では有りませんが、上野寛永寺の黒門は、境内への柵門で(現台東区上野1丁目旧黒門町に名を残す、黒門小学校あり)彰義隊と官軍の戦闘の口火が切られた門です。又大森の池上本門寺の総門が黒門で現存している、この先に仁王門がある。

東西15間南北10間158坪、清浄光寺の塔頭、同寺本堂の南にあり、開基創建不詳。(皇国地誌)

子院；真光院、栖徳院、善徳院、貞松院、が大正6年合併、昭和初期真徳寺と称す。明治18年火災焼失。本堂天井に画家芳川清(喜善師)作の花鳥が描かれている。江ノ島道標(元禄期將軍御殿医杉山検校が設置した石塔の一つ、元有った場所無不明・遊行寺橋小路で出土・砂山観音にあった説も)。墓域に貞松院烈成和尚卵塔あり、国定忠治1の子分板割浅太郎が、赤城山の別れから、遊行寺に流れ着き僧侶になったと伝う。

12・真浄院

東西26間南北14間366坪、清浄光寺の塔頭、同寺本堂の西南にあり、開基創建不詳。(皇国地誌)
遊行上人が本山に入る前夜此处に止まるを例とした院。

13・枅形

万一の事態に備え道路を枅形に作り宿場防衛の役目を持たせた道路の名残。

14・遊行寺橋

遊行寺黒門を出て境川に架かる橋

15・地藏院(日限り地藏)

16・御殿橋

藤澤御殿に通じる道で境川に架かる橋。

17・陣屋小路

周辺は御殿を管理する代官屋敷が配置され、陣屋小路、御殿^{ゴテンベ}辺、陣屋橋、撥塚^{ハチヅカ}(刑場跡)等の地名が今も残る。

18・藤澤御殿跡

江戸時代初めの頃本陣が無かったので將軍自らの宿泊場所として藤澤御殿(藤澤公民館付近)を造った(東西193m南北113m)慶長5年(1600)家康が宿泊して以来、寛永11年(1634)に家光が宿泊したのが最後に廃止との記録がある。

19・庚申塔群

陣屋小路講中の庚申塔が集められている。

20・妙善寺

日蓮宗長藤山鎌倉妙本寺末、創建正元年(1504)・正宗稻荷社、本尊日蓮大菩薩。墓地の一角には本陣を務めた蒔田家の墓地が往事の隆盛を偲ぶように立っています。

21・伝義経首洗い井戸

本町公園の一郭にあり、鎌倉を追われた義経は奥州平泉に逃れるが、文治5年(1189)藤原康衡は亡父秀衡がかくまっていた義経を攻め、ついに衣川で義経を自刃させた。平泉から鎌倉に送られて来た義経の首は、首実検の後江ノ島浜に捨てられたという。潮に乗って境川をさかのぼり白旗神社付近に漂着した義経の首は里人にすくい上げられこの井戸で洗い清めたという。

22・白旗神社

藤沢西総鎮守・祭神古くは寒川比古命・宝治3年(1249)義経合祀・義経祭7月12日。

建久9年(1198)荘厳寺住職僧覚憲が別当。宝暦2年(1752)社殿再建、旧阪戸町総鎮守として白旗神社と称した。

例大祭には義経・弁慶2基の御輿が氏子町内を練り歩き大変賑やか。又秋祭り(10月28日)に行われる市指定文化財、湯立て神楽は、面を付けた山の神が道化を演じながら参拝者に餅をまく独特な神事として知られている。本殿に向かう石段の下に様々な庚申塔群があり、中には市指定文化財の庚申供養塔(寛文5年1665)右側面に「此よりはちおうしかいとう」左側面に「これよりほしのやかいとう」かつて二つの道の岐路に立てられていたと推察される

片隅には江ノ島弁財天道標1基(市指定文化財)・境内藤棚近くに芭蕉の吉野行脚の「草臥亭(くたゐり)宿かる此(こ)や藤の花」句碑(文化2年1805)。

第二十五回行程案内図

